

【単元目標】 A(1) 数の範囲を4位数まで広げて、数の概念や性質についての理解を深めるとともに、乗法的な見方や数の用いられ方についても指導し、数を用いる能力を伸ばし、数についての感覚をより豊かにする

【単元がつながる内容】

- 2年 1000より大きい数
- 3年 大きな数
- 4年 大きな数

【単元に関わる既習内容】

- 1年 大きな数
- ・120程度までの数の構成（十の位、一の位）、数え方、表し方、読み方
- ・120程度までの数の数直線表示と順序、系列、大小比較
- ・2位数と1位数の加法と減法（繰り上がり、繰り下がりなし）
- ・「10とあといくつ」という数の見方

【児童の実態】

- 多くの児童が10のまとまりを意識して数えたり、計算したりすることができる。
- 図を使って説明することが得意な児童が多い。
- タブレットを用いて、進んで練習問題に取り組むことができる児童が多い。
- たし算やひき算などの計算で、手を使って考え、時間がかかる児童がいる。
- 言葉で説明することが苦手な児童がいる。

数の理解を深める授業

⑩繰り上がりのある「何十」+「何十」の計算【活用する】<本時>

何十のたし算や何百何十のひき算の計算の仕方を考える活動を通して、10のいくつ分で考えると、これまでの計算が使えることを理解することができる。【知】

・10のいくつ分で考えれば、これまでのたし算やひき算のように計算できる。答えは10のいくつ分だから、一の位に0をつけ忘れないようにする。

⑪たしかめ問題

基本的な学習内容を理解しているかを確認し、それに習熟する。【知】

・1000までの数を数えたり、表したりすることができた。また、何十のたし算やひき算を10のいくつ分で考えることができた。

【単元後の児童の意識】

100より大きな数も10や100のいくつ分と考えれば、数に表したり、計算したりすることができる。もっと大きな数はどうなるのだろう。

⑥数直線の読み取り

数直線を読み取る活動を通して、数直線の仕組みを理解し、数直線上に表された数を讀んだり、数直線上に表したりすることができる。【知】

・数の線を読むときは、1目盛りの大きさを調べ、大きな目盛りを使いながら数える。

⑦3位数の大小比較

3位数の大きさを比べる活動を通して、3位数の大小比較の仕方を理解することができる。【知】

・数の大きさを比べるときは、上の位から順に比べる。

⑧いろいろな見方

3位数を様々な見方で表す活動を通して、3位数の数を多面的に見て表すことができる。【考・主】

・100より大きい数は、10を何個か集めた数や、何百より大きい数、小さい数などのように、いろいろな見方をすることができる。

⑨100を10個集めた数

100を10個集めた数について調べる活動を通して、1000の構成や大きさ、表し方、読み方を理解することができる。【知】

・100を10個集めた数を1000という。

数の概念を知る授業

①②3位数の数え方、構成、表し方、読み方

100より大きい数を工夫して数える活動を通して、3位数を正しく数え、10や100のまとまりで数えるよさに気づくことができる。【知・主】

・100より大きい数数えるときは、10や100のまとまりをつくと数えやすい。

③十の位が0の3位数

10のまとまりがないときの表し方を考える活動を通して、空位のある3位数の構成や表し方、読み方を理解し、表したり、讀んだりすることができる【知】

・10のまとまりやばらがないときは、十の位や一の位に0を書く。

数の見方を知る授業

④10を10個以上集めた数

10をいくつか集めた数を何百何十と表す活動を通して、10を10個以上集めた数を表すことができる【知】

・10が10こで100になることを使えば、10をたくさん集めた数を表すことができる。

⑤何百何十を10のいくつ分で表す

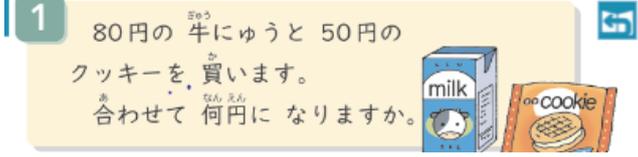
何百何十を10のいくつ分か考える活動を通して、何百何十を10を単位として表すことができる。【知】

・100は10の10こ分をもとに考えれば、何百は10のいくつ分かがわかる。一の位が0の数はすべて10のいくつ分とみることができる。

◆本時のねらい 何十のたし算や何百何十のひき算の計算の仕方を考える活動を通して、10のいくつ分で考えると、これまでの計算が使えることを理解し、正しく答えを求めることができる。

◆本時の展開 (10/11)

○研究にかかわって ◇指導の工夫

	学習活動と児童の姿	指導上の留意点
つかむ	<p>1 問題1提示</p>  <p>式: $80+50$</p>	<p>◇わかっていること、聞かれていることに線を引き、問題を整理する。</p> <p>◇たし算になるわけまで話せるようにする。</p>
考える	<p>2 課題づくり</p> <p>何十のたしざんのしかたをかんがえよう。</p> <p>3 個人追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10がいくつ分かで考える。 ・10が8こで80、10が5こで50なので、あわせると、10が$8+5=13$こで130になる。 ・筆算をすると、$8+5$で13になる。 <p>4 全体交流</p> <p>答えと答えの求め方について交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑩を書いて考えました。10が10こで100、のこり30あるので、あわせると130になります。 ・80は10が8こ分、50は10が5こ分です。だから、10が$8+5$で13こになります。10が13こなので、こたえは130です。 ・筆算を習ったので、筆算で考えました。 	<p>◇解答の見通しを持たせるために、第4・5時でやった10をもとに考えればよいという児童のつぶやきを拾い、広げる。</p> <p>○黒板には、10や100の磁石玉を貼り、「10のいくつ分」がイメージできるようにする。</p> <p>○図と式と言葉をつなげたいので、全体交流では、図で考えた子のノートは写真に撮り、電子黒板に映し出す。</p> <p>○問題2では、一人ずつが問題1の求め方で説明ができるように話型を示しておく。</p> <p>○まとめでは、「10のいくつ分」という言葉が書けるように、板書に残しておく。</p>
深める	<p>5 問題2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$150-80$の計算のしかたを考える。 ・「150は10の15こ分、80は10の8こ分です。だから、10が$15-8$で7こになります。10が7こなので、こたえは70です。」 ・答えの求め方を録音し、一度自分で聞いてから、ロイロノートで提出する。 ・全体で確認後、キーワードが入っているかペアで確認する。 	<p>評価規準【知識・技能】</p> <p>何十のたし算やひき算は、これまでの計算が使えるように10のいくつ分で考えることができる。</p>
まとめる	<p>6 まとめ</p> <p>何十のたしざんやひきざんは、10のいくつ分でかんがえれば、すぐにこたえがわかる。</p> <p>7 鉛筆問題1(プリント)に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIFUweb ラーニング きょうのもんだい ・GIFUweb ラーニング たんげんまとめのもんだい 	<p>☆10のいくつ分で考えれば、何百何十のたし算・ひき算が簡単にできることを理解する。(認識力)</p> <p>○プリントができた児童から、自分で次やることを選択して進めていく。</p>